

西条昌良

西条昌良後援会

- 事務所 ● 神栖市土台北2-11-13
- TEL ● 0479(48)0073
- HP ● <http://www.saijomasayoshi.com/>
- 発行 ● 平成18年10月
- 発行責任者 ● 泉 純一郎

茨城県議会 平成18年第三回定例会

西条昌良が代表質問に登壇



代表質問の場上で

みずからの意見を述べながら、県の考えをたしました。

【水産業の振興】

Q 西条昌良議員

豊かな海に囲まれ、優れた漁業技術や食文化を持つ日本は世界の食料不足に貢献するため自給できるものは自給する義務がある。わが国の漁獲量は一千万トンを超えていた昭和から現在では六百万トン以下に落ち込み、茨城県の沖合漁業も大幅な減少となっている。漁業環境の悪化が進み、漁業経営体数や漁業従事者数は、イワシのような回遊魚を中心とした漁獲量激減とともに減少している。一方、世界的な原油高と販売価格低迷により、水産物流通市場は逆さや。

礎の設置を積極的に推進していかねばならない。地道な努力と投資が必要だ。魚食普及、食育の推進、茨城産水産物のブランド化、県漁業の振興に向けてどのような取り組みでいくのか。

A 橋本昌知事

県では、本年度を初年度とする新しい「茨城県水産業振興計画」を策定し、組織や経営の強化と人材の育成、水産資源の持続的利用など、五つの基本方向を示した。資源の変動に対応しうる漁業経営の強化が重要。

【水産加工業の振興】

Q 西条昌良議員

水産加工業は輸入水産物に支えられて、働く場を提供している。しかし海外でも漁獲量が低迷し、世界的規模の水産物需要の高まりから価格が上昇し輸入量確保が難しくなっている。輸入水産物はコンテナによる輸送がほとんど。鹿島港北公共埠頭を効率的に運用し、水産加工業を含め産業への寄与を考える必要がありと考える。広く利用を図るには、隣県で水産加工を営む銚子を視野に入れるのも一考だ。私は、水産工業振

興にあたっては①茨城で水揚げ量の多くを占めるイワシなどの食用化を促進する。特にカタクチイワシは急務。②新鮮で安心・安全な地元水産加工品の消費拡大に合わせ付加価値の高い製品を生産する加工技術を開発し、市場導入・支援すること。③加工流通段階における衛生管理の強化、運転資金や設備投資の際の漁業・加工業者に対する融資の円滑化に努めるとともに、水産物すべてを資源化する対策を充実に。

今後どのように水

【農業の振興】

Q 西条昌良議員

茨城県の農業産出額は昭和30年代から平成初めにかけて全国2位を続けましたが、平成13年には3位から4位に転落するなど農業の活力が失われている。茨城県が独自の政策を掲げ、一大食料基地として日本をリードし、農業

産加工業の振興を図っていかのか？

A 橋本昌知事

消費者に選択される水産加工品の開発とPR、経営基盤の強化により水産加工業の振興を図ってまいります。

- ① 県政運営の基本方針
- ② 行政改革
- ③ 医療
- ④ 健康増進対策
- ⑤ 環境
- ⑥ 少子化対策
- ⑦ 交通安全
- ⑧ 交通体系の整備

自民党茨城県連の政務調査会副会長として、18年9月定例会では、自由民主党議員団を代表して「代表質問」に立ちました。① 県政運営の基本方針 ② 行政改革 ③ 医療 ④ 健康増進対策 ⑤ 環境 ⑥ 少子化対策 ⑦ 交通安全 ⑧ 交通体系の整備

備など県政全般について橋本知事と執行部の考えをたじたの続き、西条県議は地元鹿島地域の問題についても積極的な県の対応を要求しました。⑨ 農業振興 ⑩ 水産業の振興 ⑪ 地域づくりの推進として、特に地域の活性化問題、漁業・水産加工業の振興策、

精度の高い沖合沿岸の漁況情報を伝達するとともに、海域に適した種類の人工魚



満席の県議会傍聴席

(裏面へ続く)

産出額全国2位を奪取することは県政に課せられた命題。売り込みやPRにあたっては、茨城ブランドの躍進をねらい、ゴアシールのデザインを公認してはどうか？

Q 【県政地域への対応】
西条昌良議員

県央地区や筑波学園都市に比べ、北山間地域、利根川沿岸の猿島・稲敷・鹿島の方といった県境と大きな地域格差がある。本件の十万人あたりの医師数は、一五〇人で全国46位。鹿行は九十人以下。したがって二次医療・高度医療は隣の県との連携が不可欠となっている。教育面でも県際地域から隣接県に通学している高校生が多く、入学枠が設けられるなど、依存関係にある。老人福祉・老人介護など福祉分野、災害関連対策についても同様だ。構造改革特区の設定なども含む新たな施策を構築し、厚みのある暖かみのある事業の実施を求めたい。

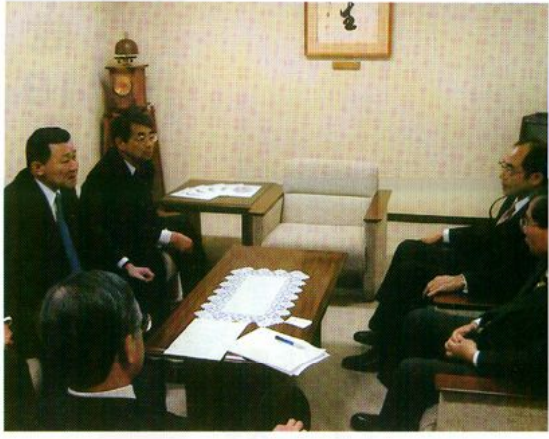
A 橋本昌知事
消費者ニーズに対応するため、高品質で商品価値の高い園芸作物を安定して出荷できる青果物産地づくりや、粒が大きく味のよい米を生

産する高品質米生産運動などを進め、販売価格の向上につなげていきたい。

4期16年 県政全般の課題に突進 底流に地元への郷土愛！

神栖町と波崎町が昨年8月1日合併して「神栖市」が誕生し更なる飛躍への第一歩を踏み出しました。岩上二郎元知事の「農工商全」の思想と鹿島開発で築かれた経済基盤を、住民一人ひとりの潤いと豊かなスタートでもありまます。県政の中核を担う柱へと大きく成長した西条昌良県議。この4期目4年間は飛躍への節目でした。

平成17年3月から1年間にわたって茨城県議会副議長をつとめ、県政全般の課題に全力投球するとともに「最南端に位置する神栖をより豊かな住みやすい地域にする」という信念を持って、地元を発展策や課題の解決に参りました。更に今年3月からは予算決算特別委員長として



保立神栖市長と済生会本部へ波崎診療所開設の陳情

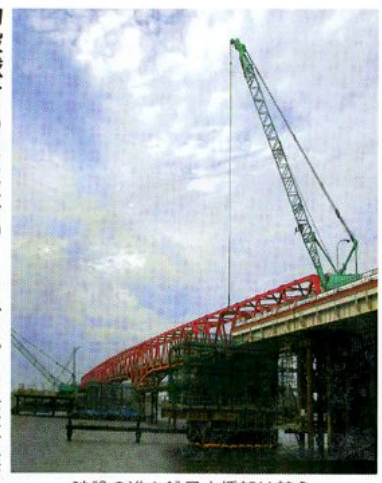
波崎海水浴場近くにあった済生会病院が昨年から神栖市知手に移転したことに伴い、東部地区の医療充実のために旧建物を利用することと、再保立一男神栖市長とともに東京の済生会本部や国・県に要望をして参りました。その熱意が実り、今年8月から「済生会波崎診療所」が開設されました。また平成13年県議会で質問して以来取り組んできた銚子市と神栖市の架け替えについては「新銚子大橋」として平成22年の完成に向けて一歩一歩工事が進められています。

鹿島南部土地改良事業の全体面積2285ヘクタールのうち波崎西部で行われた県営ほ場整備事業575ヘクタールが完成した。輸入農作物の価格低迷や後継者不足が深刻になっている現在、どのよう土地改良事業を展開していくのか。事業を進めるにあたって、残りの事業について必要性を見直し、創設換地の処分によって費用を算出した上でとりかかるといいます。県政の力強い歩みのために全

力投球することはもちろんですが、「自分が生まれ育った地元のお役に立ちたい」との郷土愛がいつも西条県議の底流に流れています。

【鹿島南部土地改良事業について予算特別委員会で要望】

鹿島南部土地改良事業の全体面積2285ヘクタールのうち波崎西部で行われた県営ほ場整備事業575ヘクタールが完成した。輸入農作物の価格低迷や後継者不足が深刻になっている現在、どのよう土地改良事業を展開していくのか。事業を進めるにあたって、残りの事業について必要性を見直し、創設換地の処分によって費用を算出した上でとりかかるといいます。県政の力強い歩みのために全



建設の進む銚子大橋架け替え